



令和5年度野洲市教育委員会
点検・評価報告書
(評価対象：令和4年度事業)

令和5年 11 月

野洲市教育委員会

— 目次 —

第1章 教育委員会の点検・評価制度の概要	1
1 経緯	1
2 学識経験を有する者の知見の活用	1
3 対象事業の考え方	2
第2章 事業の点検・評価	2
1 点検・評価の方法	2
2 評価委員会の概要	3
3 点検・評価結果	3
4 野洲市教育振興基本計画施策体系図	9
5 点検・評価シート	10
関係例規	26

第1章 教育委員会の点検・評価制度の概要

1 経緯

平成18年12月に教育基本法が改正され、更に平成19年6月に地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）が改正されました。

これにより、全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することが規定されました。

本報告書は、地教行法第26条の規定に基づき、令和4年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、教育に関する学識経験者の意見を付して報告するものです。

本報告書により、効果的な教育行政の推進と市民への説明責任を果たします。

◆地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 学識経験を有する者の知見の活用

地教行法第26条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者の知見の活用については、教育委員会が自ら行った点検・評価の結果について、野洲市教育委員会事務評価委員会（以下「評価委員会」という。）を組織して、学識経験を有する者3名から意見をいただきました。

野洲市教育委員会事務評価委員会委員

（敬称略）

第1号委員 三村 益夫 （みむら ますお）

第2号委員 藤池 弘 （ふじいけ ひろむ）

第3号委員 小澤 郁乃 （おざわ いくの）

※野洲市附属機関設置条例・別表「委員の構成」(P27) 参照

3 対象事業の考え方

野洲市教育委員会では、令和3年度から「野洲市教育振興基本計画第3期」に沿って各種施策を展開しています。

この基本計画は、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間として、地方教育の中心的な担い手である教育委員会が、本市の実情に合わせた教育施策を展開していくために策定したものです。

上記計画に位置づけられている施策を構成する事業の中で、評価の対象事業については、第2次野洲市総合計画の主要事業である14事業とこれまでの評価で継続すべきとしている主な2事業を加えた16事業としました。

第2章 事業の点検・評価

1 点検・評価の方法

評価委員会により、対象事業の決定及び対象事業の実施状況の聞き取りを実施し、事業ごとの課題や今後の方針などを明らかにする中で事業の評価を行いました。

評価基準については、内部評価（事業実績の具体的内容、目標の達成状況）を参考に、内部評価の評価基準と同様、その「進捗度」と今後の「方向性」に分けて以下の5段階の評価基準によって総合評価を行いました。

☆進捗度：計画通りに事業が進捗しているか

- 5：達成・完了
- 4：予定通り進行中
- 3：着手したが予定より遅延
- 2：統合もしくは縮小すべき
- 1：中止等

☆方向性：今後の事業の方向性の判断

- 5：拡充して継続すべき
- 4：現行通り継続すべき
- 3：見直しや改善をすべき
- 2：未着手
- 1：休止もしくは廃止すべき

2 評価委員会の概要

第1回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和5年6月26日（月） 13時30分～15時

場 所：市役所別館1階 会議室

議 題：①点検・評価の対象事業について

②点検・評価の方法について

③今後のスケジュールについて

第2回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和5年8月4日（金） 13時15分～17時

場 所：市役所別館1階 会議室

議 題：①点検・評価対象事業のヒアリング

②今後のスケジュールについて

第3回 野洲市教育委員会事務評価委員会

日 時：令和5年9月29日（金） 13時30分～16時

場 所：人権センター1階 会議室

議 題：①評価の審議・決定について

②点検・評価報告書(案)について

3 点検・評価結果

(1) 評価結果

対象事業の「進捗度」と「方向性」についての評価

☆進捗度：計画通りに事業が進捗しているか

3：着手したが予定より遅延 … 1事業

4：予定通り進行中 … 15事業

☆方向性：今後の事業の方向性の判断

4：現行通り継続すべき … 15事業

5：拡充して継続すべき … 1事業

(2) 委員からの主な評価（意見）

① 子どもの居場所づくりの推進

- ・子どもの居場所づくりは今後より必要になってくるものと考えられ、地域リーダーの発掘や育成に取り組み、より充実した事業にしてほしい。また新たな居場所づくりに向けた取組も検討してほしい。
- ・この事業を通して、多くの子どもたちの様々な体験や学びにつながればと願う。安全安心であることは大前提だが、タイトな学校教育では、やりたいがなかなかできない活動がたくさんある。ぜひ、学校と連携しながら模索に努めてほしい。

② 青少年健全育成事業

- ・地域と一体となった青少年の健全育成は大切であり、今後でも取り組んでほしい。事業内容については青少年育成市民会議と協議をしながら、今ある課題に向き合う事業内容となるよう今後も検討されたい。また、新型コロナ後の子どもたちを取り巻く状況を十分把握しながら、実態に合った内容に精査していくことも必要である。
- ・青少年の健全育成への課題は、引きこもりやその他、家庭内、地域内でも見えないことの方が多いと思う。地域の現状を把握し、何が必要か、予防と対策、両面での具体的な実践につながるような取組を期待する。

③ 学力向上推進事業

- ・プール授業は学校でも試行錯誤しての運営だったと思う。また、他学校でも老朽化が進んでいるとのことであり、今後、年間通しての利用なども含めてプール授業のあり方の模索に期待する。
- ・早急にB & Gプールの温水プールの改修を実施し、年間を通じて効率的に運用できるように進めるとともに、安全確保の人材を配置し、教員の負担が増大しないように取り組む必要がある。
- ・ICT環境の整備が整ったことに関して、新型コロナが5類に移行してからも、学級閉鎖などが日常的にある現在、リモートで授業ができることを考えると、保護者にとっては安心材料の一つだと思う。一方、授業のデジタル化が進む中で、そこについていけない子どもへの対応や支援のあり方が課題となる。
- ・学力向上の推進では子どもの学力が定着するよう、子どものペースを考慮した上で配慮する必要がある。

④ 不登校やいじめ問題等に対する支援

- ・引き続き、保護者への情報提供や心のケアなども丁寧に進めてほしい。また子どもと合わせて先生のメンタルケアも大事だと思う。
- ・支援が必要な児童生徒がどんどん増えていく中で、限られた先生だけで学級、学校を運営していくことはかなりの負担だと思う。確かな学力の育成という目標を掲げ、それに向けた実践ができる体制づくりを引き続き願いたい。
- ・新しい施設が完成したことを契機に、次年度に向けて施設の環境に見合う必要な人員をしっかりと確保し、学校と家庭をつなぐ子育て家庭を支える事業を進める必要がある。

⑤ 小中学校施設保全事業

- ・施設保全事業に関わっては計画的に着実に推進していくことが求められる。予算に裏打ちされた計画に基づき取組を進めてほしい。
- ・夏季の体育授業を進めるに当たり、熱中症防止のために、体育館に空調設備の設置を検討する必要がある。

⑥ 地域に開かれた学校事業

- ・地域と学校との協働活動が実のあるものとなるような支援が必要である。学校の実情にあった運営が必要ではないかと考えられる。
- ・学校と地域の橋渡しをするコーディネーターだけでなく、地域の中に主体的に学校と連携する推進機関を育成していくことが重要である。

⑦ 生涯学習・生涯スポーツの充実

- ・これまでの事業にとらわれず、生涯学習が市民に浸透するような新たな取組が求められる。生涯スポーツの面においては国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会を活用し、生涯スポーツへの市民の関心やスポーツからの学び合う機会を増やしてほしい。
- ・生涯スポーツの充実では健康・生きがい・自分に合った運動をテーマにして、身近にある自然や環境（例えば河川敷や公園、サイクリングロード、三上山等）を活かした活動に地域住民と一緒に取り組み、スポーツができる環境整備が大切である。

⑧ 国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の準備・運営

- ・市教育振興基本計画に基づき「見るスポーツ」と市民がボランティアによる競技への支援を進め「支えるスポーツ」としての大会となるように取り組んでほしい。また両大会が一過性に終わらず、本市のまちづくり、生涯スポーツの充実に繋がるよう進めてほしい。
- ・様々な関係団体（機関）からの協力を求めて取組を進めていくことから、所管部局については市長部局へ移管されたが、関係団体の連携協力とともに、庁内関係各課とともに大会成功に向けて取組を進めてほしい。

⑨ 社会教育関係団体の支援

- ・引き続き社会教育関係団体への支援を行ってほしい。また従来の団体だけでなく必要に応じて新たな団体へも支援できるような取組を進めてほしい。
- ・教育や福祉の視点で、教育委員会や行政ではできない部分を補う市民団体も増えてきている。従来の活動団体も大事にしつつ、支援の基準や目的を明確にしていくことも考えてほしい。

⑩ 文化芸術に親しむ機会の充実

- ・今後も様々なジャンルの舞台鑑賞や発表会の機会を充実させてほしい。観客が心地よく鑑賞できるよう設備についても必要に応じて設置、修繕を願いたい。

⑪ 歴史文化遺産の保護・継承事業①

- ・文化財としての建造物等の維持管理に務めてほしい。また来訪者が安心できる環境整備に引き続き取り組んでほしい。

⑫ 歴史文化遺産の保護・継承事業②

- ・市民の歴史や文化財への理解を深められるよう施設整備に引き続き取り組んでほしい。
- ・郷土に残る貴重な文化財を後世に伝える重要性を啓発していくことが必要である。

⑬ 企画展等開催事業

- ・地域の歴史文化の関心を広めていくために、学校との連携も必要だと思う。それぞれの地域の魅力をどのように学校教育に取り込んでいくのか、引き続き連携願いたい。

⑭ 永原御殿跡保存整備事業

- ・地域自治会等との連携を取りながら保存活動、利用促進を図るとともに、史跡地の公有化についても、着実に進めてほしい。

⑮ 通学路の交通安全

- ・関係者による合同点検を継続的に実施するとともに、交通安全対策実施後の効果の把握や検証等を行い、プログラムの更なる改善や充実を行うことで効果的に推進されている。
- ・点検箇所の問題のある地点は今後も増えていくと思われるが歩道の拡張などハード面の取組を充実させてほしい。
- ・中学生の下校時に防犯上必要となる街路灯の点検も必要である。

⑯ 総合学習等の充実

- ・児童、生徒が生きる力を身につけられるように内容を工夫しながら取り組んでほしい。
- ・保護者や地域とも連携し、「地域学校協働活動事業」や「元気な学校づくり事業」をコミュニティスクール事業に統合し、豊かな学びができる機会の充実を図ることが必要である。

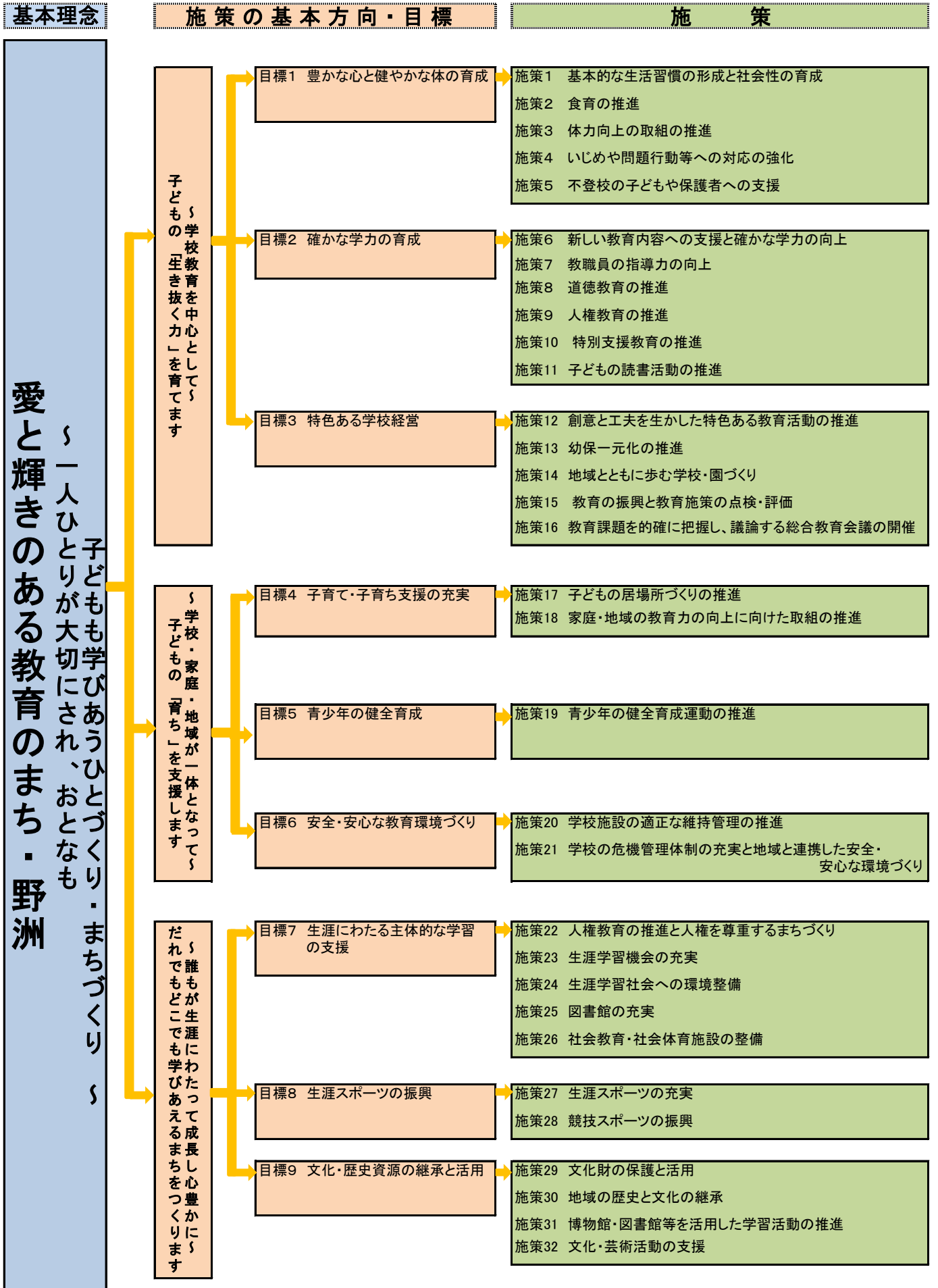
評価結果一覧表

NO	対象事業名	担当所属	内部評価		委員評価	
			進捗度	方向性	進捗度	方向性
①	子どもの居場所づくりの推進	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
②	青少年健全育成事業	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
③	学力向上推進事業	学校教育課	4	4	4	4
④	不登校やいじめ問題等に対する支援	ふれあい教育 相談センター、 学校教育課	4	4	4	4
⑤	小中学校施設保全事業	教育総務課	3	4	3	4
⑥	地域に開かれた学校事業	学校教育課	4	4	4	4
⑦	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑧	国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の準備・運営	国スポ・障ス ポ大会推進室	4	5	4	5
⑨	社会教育関係団体の支援	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑩	文化芸術に親しむ機会の充実	生涯学習 スポーツ課	4	4	4	4
⑪	歴史文化遺産の保護・継承事業①	文化財保護課	4	4	4	4
⑫	歴史文化遺産の保護・継承事業②	歴史民俗 博物館	4	4	4	4
⑬	企画展等開催事業	歴史民俗 博物館	4	4	4	4

評価結果一覧表

NO	対象事業名	担当所属	内部評価		委員評価	
			進捗度	方向性	進捗度	方向性
⑭	永原御殿跡保存整備事業	文化財保護課	4	4	4	4
⑮	通学路の交通安全	学校教育課	4	4	4	4
⑯	総合学習等の充実	学校教育課	4	4	4	4

野洲市教育振興基本計画第3期施策体系図



①令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	青少年の健全育成		
教育振興基本計画	目標4 子育て・子育て支援の充実	生涯学習課	
施策	施策17:子どもの居場所づくりの推進		
事業名	子どもの居場所づくりの推進		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	2,061千円	1,416千円	
	地域の子どもたちの安全・安心な居場所の確保、地域の多様な世代が参画する様々な体験・交流・学習活動の子どもたちへの提供として、「子どもの居場所づくり事業」を実施する。 ・地域子ども教室の開催		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	地域の子どもたちの安全・安心な居場所の確保、地域の多様な世代が参画する様々な体験・交流・学習活動の子どもたちへの提供として、「子どもの居場所づくり事業」を実施した。		
	野洲市放課後子ども教室運営管理委託事業 予算 861,000円 実績 686,112円 野洲市地域教育協議会活動推進事業 予算 1,104,000円 実績 729,665円 実施 254教室		
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中	方向性 4:現行どおり継続すべき
課題改善点等	青少年の健全育成のため、子どもの居場所づくりや子どもが地域で自由に活動できる環境づくりのためのボランティアや地域活動のリーダーの担い手を育成していくことが求められる。		
内部評価の理由	放課後や週末等における地域の子どもたちの安全・安心な居場所を確保し、地域の多様な世代が参画する様々な体験・交流などを継続していく。		
令和4年度事業 委員会評価	子ども居場所づくりは今後より必要になってくるものと考えられる。地域リーダーの発掘や育成に取り組み、より充実した事業にしてほしい。また新たな居場所づくりに向けた取組も検討してほしい。		
	この事業を通して、多くの子どもたちの様々な体験や学びにつながればと願う。安全安心であることは大前提だが、タイトな学校教育では、なかなかやりたいけどできない活動がたくさんある。ぜひ、学校と連携しながら模索に努めてほしい。		
	委託事業なので難しいとは思いますが、支援が必要な子どもに役立つ事業になってほしいと願う。		
令和4年度事業 委員会評価	令和2、3、4年度と約3年間、新型コロナウイルス感染拡大が収まらない中で、居場所づくりの中心である「地域子ども教室」や「少年スポーツ関係」が中止や自粛になることは仕方がないことであった。また、各地区の青少年育成会議を含む関係団体の諸事業も縮小せざるを得なかった。		
	子どもたちにとって、居場所づくり・環境づくりは地域での子ども同士や大人との触れ合いや、様々な体験学習は自尊感情を高めるうえで、欠くことのできない取組である。愛情をもって接する機会を確保し、お互いに認め合いながら子ども同士の豊かなつながりを構築することが求められている。		
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中	方向性 4:現行どおり継続すべき

②令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	青少年の健全育成	
教育振興基本計画	目標5 青少年の健全育成	生涯学習課
施策	施策19: 青少年の健全育成運動の推進	
事業名	青少年健全育成事業	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	1,563千円	1,563千円
	<p>青少年に係る各種団体との会議開催や街頭巡回活動等を実践し、青少年の非行防止と健全育成のための総合的な事業を野洲市青少年育成市民会議と委託契約を締結して実施する。</p> <p>①まちぐるみで愛の声かけ運動 ②はつらつ野洲っ中学生広場 ③はつらつ野洲っ子育てフォーラム ④市民会議表彰および研修会 ⑤初発型非行防止活動 ・愛のパトロール(毎月第1・3金曜日) ・夏休み、冬休み等の特別街頭補導</p>	
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	<p>野洲市内における次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、地域・青少年活動団体が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」機運を高めるとともに、共感する関係団体や個人を組織的に運営し青少年健全育成のために青少年健全育成地域活動支援事業を実施した。</p> <p>①まちぐるみで愛の声かけ運動 市内通学路 7/1(金) 参加者938名、11/1(火) 参加者874名 ②はつらつ野洲っ中学生広場 7/2(土) さざなみホール 参加者155名 ③はつらつ野洲っ子育てフォーラム 12/3(土) さざなみホール 参加者282名 ④愛のパトロール(毎月第1・3金曜日)、夏休み、冬休み等の特別街頭補導</p>	
	令和4年度	<p>進捗度</p> <p>4: 予定通り進行中</p>
課題改善点等	<p>青少年期は豊かな人間性をはぐくみながら、一人の人間として自立を促す重要な時期にあたるが、情報化の進展や共働き世帯の増加など家族のあり方の変化、地域のつながりの希薄化など、青少年を取り巻く様々な環境の変化に対応していく必要がある。</p>	
内部評価の理由	<p>すべての青少年が心身ともに健やかに成長していけるよう、家庭、学校、地域、関係機関が一体となって連携し、非行の防止やひきこもり等に対応していかなければならない。</p>	
令和4年度事業 委員会評価	<p>地域と一体となった青少年の健全育成は大切であり、今後も取り組んでほしい。事業内容については青少年育成市民会議と協議をしながら、今ある課題に向き合う事業内容となるよう今後も検討されたい。</p> <p>委託先の青少年育成市民会議に参画される方の中には、何のためのどういう組織で、自分たちが何のためにそこに関わっているのかわからないまま参画されている方もいると伺ったことがある。記述されている通り、青少年を取り巻く環境は年々変化しているし、そこにどのように向き合うかも含めて、組織の本質を議論してもらえたらと思う。</p> <p>青少年の健全育成への課題は、引きこもりやスマホ内と、家庭内、地域内でも見えないことの方が多いと思う。地域で現状を把握し、何が必要か、予防と対策、両面での具体的な実践につながるような取組を期待する。</p> <p>子どもたちを取り巻く地域社会が、一体となって「地域の子どもは地域で育てる」精神をもって、家庭・学校・関係団体と連携し取り組むことは、健全な青少年を育成するうえで欠かせない。</p> <p>その中心となっている県青少年育成県民会議の活動方針のもとに、6つの地区青少年育成会議と連携して取組を進めている野洲市青少年育成会議と行政が一体となって取り組むことはとても重要である。新型コロナ禍で活動が制限されたが、各事業を工夫して取り組んできており、今後も積極的に推進してほしい。</p> <p>特に、活動内容については、新型コロナ後の子どもたちを取り巻く状況を十分把握しながら、実態に合った内容に精査していくことも必要である。</p>	
	令和4年度	<p>進捗度</p> <p>4: 予定通り進行中</p>

③令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標2 確かな学力の育成	学校教育課
施策	施策 6:新しい教育内容への支援と確かな学力の向上 施策 7:教職員の指導力の向上	
事業名	学力向上推進事業	
令和4年度計画事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	127,836千円	126,153千円
令和4年度実績内部評価 事業実績の具体的な内容・目標の達成状況など	①野洲小学校の体育水泳授業を野洲市健康スポーツセンタープールで実施し、児童の運動技能を向上させる。 ②市内の小中学校のICT環境を整備し、子どもたちの学びの環境を充実させる。	
	①野洲小学校及び野洲中学校における水泳授業を中主B&G海洋センタープールと野洲市健康スポーツセンタープールで実施できた。 ②市内の小中学校のICT環境を整備し、子どもたちの学びの環境を充実させた。	
	令和4年度	進捗度
	4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
課題改善点等	野洲小学校だけでなく、市内全校においてプール施設の老朽化が進んでいる。健康スポーツセンタープール及びB&Gプールで実施したが、各施設の空き時間を利用するため、利用時間とスペースに限界がある。そのため、他に利用できる施設を模索する必要がある。	
内部評価の理由	今後、学校プール集約化の検討を進め、水泳授業を継続して実施する。	
令和4年度事業委員会評価	既にプールを解体されている学校もあり、学校のプール以外の施設での水泳の授業が行われているが、移動などで教員の負担が増えており、この問題を解決するための取組を早急に行ってほしい。 ICT教育の推進は必要であるが効果をあげるためには教職員の知識や指導方法を高めるための実践的な研修が必要であると考えられる。研修体制の充実を図ってほしい。また授業中児童生徒が授業内容を身に付けられるよう引き続き対応してほしい。 プール授業は学校でも試行錯誤しての運営だったと思う。また、他学校でも老朽化が進んでいるとのこと、今後、年間通しての利用なども含めてプール授業のあり方の模索に期待する。 ICT環境の整備が整ったことに関して、新型コロナが5類に移行してからも、学級閉鎖などが日常的にある現在、リモートで授業ができることを考えると、保護者にとっても安心材料の一つだと思う。一方、授業のデジタル化が進む中で、そこについていけない子どもへの対応や支援のあり方が課題となってくるのではないかと。	
	小中学校のプールについては各校老朽化が目立っている。年間のカリキュラムでのプール指導の時間は限られており、今までのように各学校で実施するのがよいのか、費用対効果も含めて検討すべきだ。 野洲中学校においても水泳についてB&Gプールで対応しているが、多くの課題があり早急に見直しが必要である。問題点として、①温水プールではないので使用時期が限られ、窮屈な中でのカリキュラムを組まなくてはならない。②野洲中から遠方にあるためバスでの移動時間がかかり、貴重な授業時間が削られる。③教師もそのバス移動での生徒の安全確保や人数点検等、授業以外の余分な負担がかかっている。	
	令和4年度	進捗度
	4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

④令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート		
総合計画	学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標1 豊かな心と健やかな体の育成 目標2 確かな学力の育成	ふれあい教育相談センター 学校教育課
施策	施策 4: いじめや問題行動等への対応の強化 施策 5: 不登校の子どもや保護者への支援 施策 10: 特別支援教育の推進	
事業名	不登校やいじめ問題等に対する支援	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	15,119千円	15,119千円
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	①小・中学校に行けない(行きにくい)子どもに対して、居場所となる適応指導教室(ドリーム教室)事業や家庭訪問型学習支援事業を行う。これらの事業を通して、一人ひとりの自主的な活動やたくましい心の育ちを支援したり学習の援助を行う。 ②不登校やいじめなどに苦しむ子どもたちや保護者に対して電話や面談によりカウンセリングを行う。 ③不登校やいじめについて、学校や相談支援機関のスキル向上のための仕組みを整える。	
	①適応指導教室では、小中学生10名の通所と2名の体験に対応し、学校に行けない、行きにくい子どもたちの居場所となり、通所延べ人数は令和3年度の約1.8倍となった。 ②家庭訪問型学習支援事業においても7名の支援を実施し支援延べ人数は令和3年度の2.2倍と大きく増加した。 ③こころの教育相談については子ども自身のことにとどまらず、保護者や家庭についての悩みにも対応した。延べ相談件数は338件で、新規相談6ケースを受けることができた。 ④不登校状況について、小学校44人(不登校率1.51%)前年度から14人減、中学校80人(不登校率5.75%)前年度から14人増。	
	令和4年度	進捗度 4: 予定通り進行中
課題改善点等	①市内の小中学校における不登校児童生徒は、国や県と同様、増加傾向にある。より多くの不登校に苦しむ子どもたちや保護者の支援につなげなければならない。 ②不登校状態になった子どもたちの中には発達課題を持つ子どもも少なくない。発達についての専門機関としての発達支援センターとの共有・連携をより深めていくことが重要である。 ③こころの教育相談では、相談延べ件数が令和3年度の約8割にとどまった。 ④不登校対策として、誰一人取り残されない学びの保障に向けた取組みとして、地域総がかりで児童生徒の社会的自立を支えなければならない。多面的にアセスメント、丁寧な支援(情報共有と引継ぎの強化)、県教委が作成のリーフレットを活用しチーム学校で児童生徒を支え、家庭教育支援事業として地域住民、ボランティアによる学校と家庭をつなぐ子育て家庭を支える事業を進める必要がある。 ⑤いじめが認知された後に行われる学校の事実調査や指導などを支援することはもちろん、いじめや虐待、いじめ予防教育、法令に基づく対応などスクールロイヤーに法務相談ができる体制が必要である。	
内部評価の理由	関係機関が連携し、継続して取り組む必要がある。	
令和4年度事業 委員会評価	不登校など課題を背負わせられている児童、生徒には教職員はもとよりスクールソーシャルワーカーやカウンセラーなど関係機関と連携し取組をより充実させてほしい。 ドリーム教室、家庭訪問型学習支援という受け皿の利用が増えたことは良かったと思う。一方で、子どもが学校へ行き渋った、休みが多くなった初期段階で、保護者が対応に戸惑われたり、子どもとどう向き合っているかわからないと悩まれるケースが多いと聞く。引き続き、保護者への情報提供や心のケアなども丁寧に進めてほしい。また子どもと合わせて先生のメンタルケアも大事だと思う。支援が必要な児童生徒がどんどん増えてくる中で、限られた先生だけで学級、学校を運営していくことはかなりの負担だと思う。確かな学力の育成という目標を掲げ、それに向けた実践ができる体制づくりを引き続き願いたい。 個別事情に応じた支援は、学校や保護者、関係機関との連携は欠かせない。特に、本市の取組である適応指導教室や家庭訪問型学習支援は大変効果的な取組で、実績を積み重ねていて素晴らしい。学校だけでは取組が進まない事案に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、カウンセラーの支援や実践で解決の方向性が見えてくる場合も多い。 今までは施設面の環境で、必要な人材が十分に確保できなかった。今年度新しい施設も完成したことを契機に、次年度に向けて施設の環境に見合う必要な人員をしっかりと確保し、多面的なアセスメント、丁寧な支援を充実させ、チーム学校で児童生徒を支え、家庭教育支援事業として地域住民、ボランティアによる学校と家庭をつなぐ子育て家庭を支える事業を進める必要がある。 また、いじめや虐待、いじめ予防教育、法令に基づく対応などスクールロイヤーに法務相談ができる体制がぜひとも必要である。	
	令和4年度	進捗度 4: 予定通り進行中

⑤令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画		学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標6 安心・安全な教育環境づくり	教育総務課	
施策	施策20:学校施設の適正な維持管理の推進 施策21:学校の危機管理体制の充実と地域と連携した安心・安全な環境づくり		
事業名	小中学校施設保全事業		
令和4年度計画事業概要	令和4年度予算額		令和4年度決算額
	570,842千円		144,640千円
	今後の小中学校施設の適正な維持管理及び長寿命化を図るため、当市の財政状況を見極めた上で事業化を決定する。順次、老朽化対策を必要とする各小中学校施設における大規模改修等の工事を実施する。 (中主小学校 旧館棟改築工事) (北野小学校 校舎増築、旧館校舎・体育館大規模改修工事基本設計業務) (中主中学校、野洲中学校特別教室空調設置工事)		
令和4年度実績内部評価 事業実績の具体的内容・目標の達成状況など	北野小学校校舎増築、旧館校舎・体育館大規模改修工事基本設計業務を完了した。中主中学校、野洲中学校の特別教室の空調設置工事を完了した。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		3:着手したが予定より遅延	4:現行どおり継続すべき
課題改善点等	中主小学校旧館棟改築工事では環境基準を超えるヒ素が土壤内に検出し、その対応として土壤汚染対策工事に時間を要したことから、工期を令和5年5月末まで延長した。これにより、新館棟大規模改修工事は令和5年度からの着工となった。		
内部評価の理由	①北野小学校については、校舎増築工事等の基本設計業務を計画通り完了できた。 ②中主小学校については、旧館棟改築工事が遅延したことから、令和4年度の着工を計画していた新館棟大規模改修工事の着工時期を見直すこととなった。		
令和4年度事業委員会評価	予算に裏打ちされた計画に基づき取組を進めてほしい。 施設保全事業に関わっては計画的に着実に推進していくことが求められる。その際、昨今の世界的な温暖化や異常気象、突発的な災害も十分に検討されねばならない。 学校における危機管理体制について、適切な防災計画が作成されているかを再点検する必要がある。昨今の地球温暖化に関わる気象変化の中で、洪水や土石流、山崩れが頻発している。 市内小中学校においてもハザードマップでの土砂災害警戒区域に入っている学校もある。学校の危機管理意識をさらに高めるとともに、行政が積極的に関わりながら、それぞれの個別のきめ細かい防災計画の作成を指導・点検すべきだ。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		3:着手したが予定より遅延	4:現行どおり継続すべき

⑥令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標3 特色ある学校経営	学校教育課
施策	施策14: 地域とともに歩む学校・園づくり	
事業名	地域に開かれた学校事業	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	2,000千円	1,972千円
	①地域に開かれた学校づくり、学校を核にしたまちづくりに向けた動きを加速させていく。 ②コミュニティスクール準備会の活動開始	
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	①野洲市学校運営協議会規則を制定し、コミュニティ・スクールをすべての学校に導入する準備を整えた。 ②コミュニティ・スクールの導入のため、各学校を訪問し、準備委員会の支援を延べ38回行った。 ③コミュニティ・スクールについて研修会や地域・教職員向けの説明会を計6回開催し周知を行った。 ④地域学校協働活動との一体的推進のため、地域学校協働活動推進員に対してもコミュニティ・スクールの導入に関する研修会や連絡協議会、県内学校視察を計9回行った。 ⑤全小中学校にコミュニティ・スクールの導入準備が整い、令和5年度より各学校に学校運営協議会が設置されることとなった。 ⑥各学校より選出された学校運営協議会委員は、延べ60人となった。	
	令和4年度	進捗度
		4: 予定通り進行中
課題改善点等	①コミュニティ・スクール導入により、学校運営の改善が行われる学校と、十分な協議が行われず形式的な学校運営協議会になる学校もあるので、今後も引き続き、伴走支援を行う必要がある。 ②学校運営協議会で、本来協議すべき学校運営に関する課題が提示されず、学校からの定型的な報告が中心にならないよう、報告事項と協議事項を区別し、学校運営協議会本来の効果が発揮されるよう進めていく必要がある。 ③コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が図れるように、課題を絞っての解決に向けた話し合いと具体的な活動とのバランスをとっていかなければならない。	
内部評価の理由	コミュニティスクールや地域学校協働活動への移行といった過渡期にもあるので、今後も継続して実施する。	
令和4年度事業 委員会評価	地域と学校との協働活動が実のあるものとなるような支援が必要である。学校の事情にあった運営が必要ではないかと考えられる。 各校に生涯学習課が何度も足を運び、学校や地域と一緒に準備に力添えをいただいた。どの時代も、何かを始めるときは生みの苦しみがあり、それが年齢幅が広いと広い分だけ、立場が違う人が多ければ多い分だけ、時間と労力がかかる。記述の課題改善点に賛同するとともに、あわせて、福祉視点での協議ができるように今後のコミュニティスクールに期待する。 本市において、コミュニティスクールも定着してきたが、その地域の主体的な推進機関を育成できていないのではないかと一部にはまちづくり協議会など整備できている地域もあるが、学校と地域の橋渡しをするコーディネーターだけでなく、地域の中に主体的に学校と連携する推進機関として「学区青少年育成会議」を育成し、謝礼など人員確保のための必要な予算を十分に確保していくことが重要である。	
	令和4年度	進捗度
		4: 予定通り進行中

⑦令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート			
総合計画	生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進		
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標8 生涯スポーツの振興	生涯学習課 スポーツ施設管理室	
施策	施策23:生涯学習機会の充実 施策24:生涯学習社会への環境整備 施策27:生涯スポーツの充実 施策28:競技スポーツの振興		
事業名	生涯学習・生涯スポーツの充実		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	729,077千円	545,927千円	
	①生涯学習カレッジや出前講座等を充実し、各自治会、各団体等に情報提供を行い、市民への学習機会の提供と啓発を行う。 ②各団体やサークル間での発表等を通じて自らがより良い学びを追求するなどの自立した活動に繋げるため、コミュニティセンターと連携を図り、学習機会の充実と成果を活かす場を提供する。 ③総合体育館をはじめ市民グラウンド、野洲川河川公園、健康スポーツセンターを健康と交流を創出する拠点施設として生涯スポーツの機会の提供を図る。		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①生涯学習カレッジや出前講座等を充実し、各自治会、各団体等に情報提供を行い、市民への学習機会の提供と啓発を行った。 生涯学習カレッジ 5講座 参加者196人、出前講座 35講座 参加者852人 ②各社会教育施設等と連携を図り、学習機会の充実と成果を活かす場を提供した。 ③国スポ・障スポ大会の会場となる総合体育館を令和4年度から5年度にかけて大規模改修することで、拠点スポーツ施設の環境整備を行った。(工事請負費…538,600千円) ④スポーツ施設を健康と交流を創出する拠点施設として生涯スポーツの機会の提供に努めた。 特に、総合体育館、海洋センターでは、スポーツ活動の機会を提供するため、施設の特性を活かしたスポーツ教室等を開催した。 総合体育館…7教室 海洋センター…4教室		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
課題改善点等	生涯学習の機会の提供に努めているが、参加者の固定化が課題となっている。また、学んだことを地域で活かせる機会の提供が必要である。 スポーツの機会の提供に努めているが、新たな参加者の創出が必要である。そのためにも、新たなスポーツ教室開催の検討や施設面での安全面や多様な利用を配慮した環境整備が必要である。		
内部評価の理由	市民の多様なニーズに対応するため、世代別に対応する学習講座の開設や生涯学習に関する情報を提供し、今後も学習機会の充実を図っていく。		
令和4年度事業 委員会評価	これまでの事業にとらわれず、生涯学習が市民に浸透するような新たな取組が求められる。生涯スポーツの面においては国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会を活用し生涯スポーツへの市民の関心やスポーツからの学び合う機会を増やしてほしい。 人の価値観や考え方が多様化してきた時代、また、人生100年時代を見据えた、これからの生涯学習の推進のあり方を市民の皆さんに考えてもらうきっかけの年だったように思う。人づくりは時間がかかるし、ある意味、運動的要素を持つので、すぐに結果は出ないが、やはり、必要な人に必要な情報や学びが届けられる手段は、やりながら考えていくしかないと思う。もう一つは、自治会やPTA、サークルや活動団体などやボランティア、スポーツや文化活動などは、コミュニティが大きく影響していると思う。これらのコミュニティを今後どのように考えていくのか、研究していくことも必要ではないかと思う。 広く市民が生涯学習や生涯スポーツに主体的に取り組む機会が増えるよう、市民ニーズや社会的課題に応じたメニューを充実させ、わかりやすく情報を発信することに努めていることはとても大切なので継続してほしい。 一方で、参加者の固定化が問題になっている。これは生涯学習・スポーツの機会を望んでいる方の要望とすれ違いや、参加しにくい施設や体制に課題があるのではないだろうか。場所が遠いとどうしても車でないと行けなかったり、自分がしたいスポーツや文化施設がなかったり、高齢者が使いやすい施設でなかったり、逆に幼児と保護者が安心して遊べる施設がなかったりする。特に、関係する施設が身近にないと感じる。 特に、三上学区では三上幼稚園、三上保育園が統合されて施設がなくなり、スポーツや生涯学習に関する施設が不足している。地区住民がグラウンドゴルフをする場所を確保するため、住民20数名が大山川土手を毎月1回草刈りをしなければならない。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき

⑧令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進	
教育振興基本計画	目標8 生涯スポーツの振興	国スポ・障スポ大会推進室
施策	施策28:競技スポーツの振興	
事業名	国民スポーツ大会及び全国障害者スポーツ大会の準備・運営	
令和4年度計画事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	601千円	601千円
	<p>・野洲市準備委員会を設立する。また、会期を含め滋賀県での開催が正式に決定された後に、実行委員会へ改組する。 (仮称)庁内推進会議の設置を目指し、庁内の情報共有、役割分担の連携を進める。 準備運営に必要な各種計画を策定するため、実行委員会内に専門委員会を設置し検討を進める。</p>	
令和4年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	<p>【会議の開催】 4.19 準備委員会設立総会・第1回総会 9.20 第1回常任委員会 第1回実行委員会総会(改組) R5.2.16-17 各専門委員会 (総務・企画、競技・式典、宿泊・衛生、輸送・交通) 【広報啓発活動】 ・広報紙の発行(2回)・啓発イベントの実施(県主催)・各種イベント等への出展 【先催県視察】 いちご一会とちぎ国体(国民体育大会)、いちご一会とちぎ大会(全国障害者スポーツ大会)</p>	
	令和4年度	進捗度
		4:予定通り進行中
課題改善点等	<p>【庁内推進会議の設置】 今後、本格的に大会準備を進めていくにあたり、庁内関係各課からの協力は欠かせない。また、大会期間中の職員動員が必要不可欠である。このため、令和4年度中に庁内推進会議を設置し、庁内における大会推進本部となる庁内体制を整える計画であったが、事務移管に伴う組織改編が行われることから新組織で取組むこととした。 【大会開催の機運醸成】 市民に大会を認知していただき、多くの市民が大会に関わり、観戦等として参加いただくためにも広報啓発に積極的に取組む必要がある。そのために市内で開催されるイベント等へのブース出展やSNS等を活用した情報発信に取組む。</p>	
内部評価の理由	<p>令和6年のリハーサル大会を含め、令和7年の本大会の開催に向けた準備を進めていくにあたり、今後、年次的に必要な人員・予算が増加してくることを想定している。このことから、市実行委員会において定めた開催推進総合年次計画を着実に取組む必要がある。</p>	
令和4年度事業委員会評価	<p>市実行委員会で年次計画が定められているとのことであるので、その計画に基づき必要な予算を精査の上無駄のないよう取り組んでもらいたい。市教育振興基本計画に基づき「見るスポーツ」と市民がボランティアによる競技への支援を進め「支えるスポーツ」としての大会となるよう取り組んでほしい。また両大会が一過性に終わらず、本市のまちづくり、生涯スポーツの充実に繋がるよう進めてほしい。</p> <p>令和4年度は、準備委員会総会をはじめ、常任委員会、実行委員会、各専門員会も確実に開催され、広報紙の発行、開催県の下見など本県の開催に向けて着実に取組を進めているのは頼もしい限りである。</p> <p>令和5年度からは全庁的な協力に加え、教育分野だけではなく、様々な関係団体(機関)からの協力を求めて取組を進めていくことから、所管部については市長部局へ移管されたが、関係団体の連携協力とともに、庁内関係各課とともに大会成功に向けて取組を進めてほしい。</p>	
	令和4年度	進捗度
		4:予定通り進行中

⑨令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進	
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援	生涯学習課
施策	施策24:生涯学習社会への環境整備	
事業名	社会教育関係団体の支援	
令和4年度計画事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	12,476千円	12,476千円
	野洲市社会教育関係団体の活動に対して支援を行い生涯学習によるまちづくり及び社会教育の振興を図るとともに、各活動団体の活性化や活動を担う人材の育成に取り組む。	
令和4年度実績内部評価 事業実績の具体的内容目標の達成状況など	社会教育関係団体への活動支援等により生涯学習・生涯スポーツの推進を図った。	
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中
課題改善点等	団体やサークルの指導者等の高齢化が進行しており、主体的な活動への参加を通じて、後継者の育成・確保に取り組む必要がある。	
内部評価の理由	身近な施設を活用した活動の推進や社会教育団体への支援と担い手の育成など、活動しやすい環境の整備を進める。	
令和4年度事業委員会評価	引き続き社会教育関係団体への支援を行ってほしい。また従来の団体だけでなく必要に応じて新たな団体へも支援できるような取組を進めてほしい。 社会教育委員会でも意見が出されたが、どういう団体に、どのような支援が必要かを見直して必要があるのではないかと。例えば、教育や福祉の視点で、教育委員会や行政ではできない部分を補う市民団体も増えてきている。従来の活動団体も大事にしつつ、支援の基準や目的を明確にしていくことも考えてほしい。 野洲市内における次世代を担う青少年の健全な育成を図るため、地域・青少年活動団体が連携し、「地域の子どもは地域で育てる」機運を高めるとともに、共感する関係団体等が青少年健全育成のために、それぞれ主体的に活動することはとても重要である。 その活動において、最近の最大の課題は社会教育団体への担い手不足がある。少年補導員、青少年育成会議、人権擁護委員など、定年の延長、高齢化の進行、年金不足による高齢での就職など、ボランティア人材がますます不足する中で、何らかの手を打たなければ枯渇してしまうのではないかと。活動しやすい環境の整備として、有償ボランティア化が必要ではないかと。 昨今のPTAの状況についても課題整理が必要ではないかと。任意団体ではあるものの、PTA離れから生まれる様々な影響が一段と子どもの育成にも関わってくるように思う。これからのPTAのあり方やそれに変わるような、子どものことを家庭・学校・地域、みんなが学べる場についても市民(保護者)と一緒に考えていく場が必要だと思ふ。	
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中

⑩令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	生涯学習・生涯スポーツ・文化芸術の推進		
教育振興基本計画	目標9 文化・歴史資源の継承と活用	野洲市文化ホール	
施策	施策32:文化・芸術活動への支援		
事業名	文化芸術に親しむ機会の充実		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	8,934千円	7,784千円	
	①様々なジャンルの鑑賞型事業を実施することで本格的な舞台芸術に触れ鑑賞する機会を増やす。 ②野洲文化ホール・さざなみホールで各種教室を開催し文化活動の機会を提供すると共に受講生の発表会を開催して成果発表の場を提供する。また、出張演奏会等への出演機会を創出する。		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①「関西フィル・リラックスコンサート」や「夏井いつき俳句ライブ」、「NHK新BS日本のうた」等、42本の鑑賞型事業を実施した。 ②文化活動の機会として各種音楽教室やフラダンス教室に加え、日本画教室を新規開講するなど、野洲文化ホール(7教室)・さざなみホール(9教室)両館で16教室を開催した。 ③成果発表の場として教室発表会や作品展等を開催した。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
課題改善点等	①優れた舞台芸術の鑑賞機会を増やすよう継続した取り組みが必要である。 ②教室事業では、事業自体の認知度を上げて受講者増に繋げながら、教室発表会等成果発表の場を通じて文化振興の担い手を育成していく必要がある。		
内部評価の理由	コロナ禍の中で文化・芸術に取り組んでいる多くの市民の活動への支援を行い、豊かな心や感受性が育めるよう施設の提供により身近な場所での活動を支援した。		
令和4年度事業 委員会評価	今後も様々なジャンルの舞台鑑賞や発表会の機会を充実させてほしい。観客が心地よく鑑賞できるよう設備についても必要に応じて設置、修繕を願いたい。 コロナ禍の中で、様々なジャンルの優れた舞台芸術の鑑賞機会や学ぶ機会、文化芸術に関心を持つ機会の提供と成果発表の場を設けることはたいへん意義のあることである。文化芸術に親しむ機会を確保していくことを今後もしっかりと取り組んでほしい。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑪令和4年度実施事業対象 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	歴史文化遺産の保全・活用		
教育振興基本計画	目標9 文化・歴史資源の継承と活用	文化財保護課	
施策	施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承		
事業名	歴史文化遺産の保護・継承事業①		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	7,545千円	7,062千円	
	①国・県指定文化財建造物の防災設備保守点検、国選定保存技術(本藍染)伝承事業、名勝兵主神社庭園荒廃防止補助のほか、名勝兵主神社庭園保存活用計画策定補助(2か年計画の2年目)、錦織寺襖絵修理補助(6か年計画の3年目)、錦織寺御影堂棧唐戸(側面)の修理を行う。 ②国史跡大岩山古墳群の適正な維持管理に努める。		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①国・県指定文化財建造物の防災設備保守点検、国選定保存技術本藍染伝承事業、国名勝兵主神社庭園荒廃防止の補助を行った。 ②兵主神社庭園保存活用計画策定補助(2か年計画の2年目)や、錦織寺襖絵修理補助(6か年計画の3年目)、錦織寺御影堂棧唐戸(側面)の修理補助を予定どおり行った。 ③国史跡大岩山古墳群についても、植生繁茂期に重点的に除草を行い、来訪者に対する環境整備に努めた。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
課題改善点等	国・県指定文化財(建造物)は、防災設備の更新時期に差し掛かっており、計画的な改修措置を行う必要がある。御上神社は、令和5年度に国・県の補助事業により改修予定である。		
内部評価の理由	補助事業を計画的に実施し、修理等の課題の把握も行っている。史跡公園についても、除草等の維持管理を実施した。		
令和4年度事業 委員会評価	文化財としての建造物等の維持管理に務めてほしい。また来訪者が安心できる環境整備に引き続き取り組んでほしい。 国県指定文化財建造物の防災設備点検は毎年計画的に着実に実施していくことが求められ、更新時期を確認し、現状を点検しながら洩れがないように維持管理を実施願いたい。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき

⑫令和4年度実施事業対象 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	歴史文化遺産の保全・活用	
教育振興基本計画	目標9 文化・歴史資源の継承と活用	歴史民俗博物館
施策	施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承 施策31:博物館・図書館等を活用した学習活動の推進	
事業名	歴史文化遺産の保護・継承事業②	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	42,870千円	36,724千円
	①失われつつある歴史・民俗資料の調査を行い、地域要望に基づき地域史の解明と伝統文化の継承に努める。 ②文化財の保存公開を適切に行うため、消火・警報設備改修を国の補助を受け実施する。 ③特別収蔵庫の空調設備改修工事の実施設計業務を行う。	
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①7件の資料調査を行い、資料の寄贈(8件)を受けることによって、失われつつある歴史・民俗資料を博物館で保管し、地域の歴史の解明と伝統文化の継承に努めた。 ②文化財の保存公開を適切に行うため、国庫補助金を活用し防災設備更新工事を実施した。 ③特別収蔵庫空調設備改修工事の実施設計を完了した。	
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中
課題改善点等	①郷土に残る貴重な歴史・民俗資料を博物館や地域の人々によって継承してもらうために、文化財を後世に伝える重要性等を啓発していくことが大切である。 ②老朽化した空調設備等の計画的な更新が必要である。	
内部評価の理由	資料の調査や寄贈相談には随時対応して散逸防止を図るとともに、地域史解明や文化の継承に努めた。また、防災設備更新工事を完了するとともに、特別収蔵庫空調設備改修工事の実施設計を完了した。	
令和4年度事業 委員会評価	市民の歴史や文化財への理解を深められるよう施設整備に引き続き取り組んでほしい。 文化財を後世に伝える重要性などを啓発していくことが必要である。また、空調設備については計画的に順次更新していく必要がある。	
	令和4年度	進捗度 4:予定通り進行中

⑬令和4年度実施事業対象 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	歴史文化遺産の保全・活用	
教育振興基本計画	目標7 生涯にわたる主体的な学習の支援 目標9 文化・歴史資源の継承と活用	歴史民俗博物館
施策	施策23:生涯学習機会の充実 施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承 施策31:博物館・図書館等を活用した学習活動の推進	
事業名	企画展等開催事業	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	1,600千円	1,272千円
	①現在、休館中の滋賀県立琵琶湖文化館に寄託される旧野洲郡関係資料を中心に野洲・守山市内に点在する資料をあわせ、中・近世に栄えた野洲の魅力を美術工芸品から紹介する琵琶湖文化館地域連携・秋期企画展「近江湖南に華開く宗教文化-野洲と守山の神仏-」展(仮称)を開催する。 ②考古・歴史・民俗資料から野洲の特性を取り上げたテーマ展示、講演会等を開催する。	
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①滋賀県立琵琶湖文化館・守山市と連携し、秋期企画展「近江湖南に華開く宗教文化」を令和4年10月8日から11月27日の会期で実施した。記念講演会も合わせて行い、期間中入館者数は2,487名であった。 ②その他、特集陳列「大篠原の歴史と文化」やテーマ展「近江国野洲郡 永原御殿」等を開催し、地域の魅力ある歴史の発信に努めた。	
	令和4年度	進捗度 4: 予定通り進行中
課題改善点等	地域の歴史や文化に関心をもっていただけるようなテーマ選定や、魅力ある展覧会や講演会の企画を引き続き進めていく必要がある。また、効果的な事業取組の一環として、他館との連携や協力を視野に入れた計画も必要である。	
内部評価の理由	今年度も新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に努めながら、展覧会や講演会を実施した。特に、秋期企画展では他館と連携し、効果的な取組が進められた。これらの事業を通して、多くの市民に郷土の豊かな歴史や文化を知っていただいた。	
令和4年度事業 委員会評価	市民が本市の豊かな歴史や文化に興味をわくような取組を引き続き進めてほしい。 課題改善の記述にあるように、地域の歴史文化の関心を広めていくために、学校との連携も必要だと思う。それぞれの地域の魅力をどのように学校教育に取り込んでいくのか、引き続き連携を願いたい。 地域の歴史や文化に関心をもってもらえるようなテーマ選定や、魅力ある展覧会や講演会の企画を引き続き進めていく必要がある。	
	令和4年度	進捗度 4: 予定通り進行中

⑭令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	歴史文化遺産の保全・活用		
教育振興基本計画	目標9 文化・歴史資源の継承と活用	文化財保護課	
施策	施策29:文化財の保護と活用 施策30:地域の歴史と文化の継承		
事業名	永原御殿跡保存整備事業		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	89,570千円	71,676千円	
	①本丸の公有地化(約4,000㎡)、整備基本設計書策定、発掘調査、史跡活用事業を国庫補助金の交付を受けて実施する。 ②本丸・二の丸の未指定地について国史跡追加指定の同意を得る。		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容目標の達成状 況など	①国史跡永原御殿跡の整備基本設計、発掘調査、活用事業、公有化に取り組んだ。 ・発掘調査は、本丸土塁の北西隅「乾角御矢倉」を中心に行い、3月18日に現地説明会(参加者151人)を実施した。 ・活用事業では、8月に発掘調査体験教室(4回、参加者67人)を開催し、10月16日には第2回永原御殿跡フォーラム(参加者169人)を、妓王まちづくり推進協議会との共催により開催した。 ・史跡の公有化は、令和4年度には本丸の計7筆、3958.57㎡(繰越分含む)の土地を購入した。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき
課題改善点等	①発掘調査や活用事業では、地域との連携・協働をさらに深め、成果を共有しながら取り組みを継続していく必要がある。 ②史跡の公有化や追加指定は、土地所有者へのていねいな説明を行い、理解を得ながら進めていく必要がある。		
内部評価の理由	発掘調査、整備基本設計を行い、活用事業は地域との連携・協働により取り組みを継続実施している。史跡地の公有化についても、所有者への説明を行い、計画的に進行している。		
令和4年度事業 委員会評価	地域自治会等との連携を取りながら保存活動、利用促進を図ってもらい、史跡地の公有化も進めてほしい。 国史跡永原御殿跡の整備基本計画策定、発掘調査、活用事業、公有化に取り組むことは大切である。発掘調査は、本丸土塁の北西隅「乾角御矢倉」を中心に行い現地説明会を実施したり、活用事業では、8月に発掘調査体験教室を開催し、10月16日には第2回永原御殿跡フォーラムを、妓王まちづくり推進協議会との共催により開催したことは大変意義がある。 今後も継続して、地元の江部自治会・祇王学区との連携、協働により、保存整備と活用促進を行ってほしい。また、史跡地の公有化についても、着実に計画的に進めてほしい。		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4:予定通り進行中	4:現行どおり継続すべき

⑮令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	学校教育の充実		
教育振興基本計画	目標6 安全・安心な教育環境づくり	学校教育課	
施策	施策21:学校の危機管理体制の充実と地域と連携した安全・安心な環境づくり		
事業名	通学路の交通安全		
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額	
	239千円	151千円	
	<p>①継続的に通学路の安全を確保するため、野洲市通学路交通安全対策推進会議を開催し、関係者による合同点検を継続的に実施するとともに、交通安全対策実施後の効果の把握や検証等を行い、プログラムの更なる改善や充実を行う。</p> <p>②①の取組をPDCAサイクルとして繰り返し実施し、通学路の安全性の向上を図る。</p> <p>③①②の結果は、ホームページ等で公表する。</p> <p>(P) 合同点検の実施や対策の検討等</p> <p>(D) 道路管理者や警察等による対策の実施</p> <p>(C) 対策効果の把握・検証(交通安全対策推進会議等)</p> <p>(A) プログラムの更なる対策の改善・充実</p>		
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	<p>①第1回野洲市通学路交通安全対策推進会議(全体会議)は5月に開催した。</p> <p>②第2回野洲市通学路交通安全対策推進会議は、9月～11月に小学校区別に実施した。地域ボランティアやPTAから提出された危険度が高い箇所の点検を行い、点検後は危険箇所の対策案や対策後の効果等について協議した。</p> <p>③第3回野洲市通学路交通安全対策推進会議(全体会議)は2月に開催した。</p> <p>≪令和4年度対策必要箇所とハード対策完了箇所の推移≫</p> <p>●対策必要数 平成29年度:86箇所、平成30年度:101箇所、令和元年度:113箇所、 令和2年度:120箇所、令和3年度:148箇所、令和4年度:166箇所</p> <p>●ハード対策完了箇所数 平成29年度:40箇所、平成30年度:51箇所、 令和元年度:55箇所、令和2年度:70箇所、 令和3年度:88箇所、令和4年度:99箇所</p>		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき
課題改善点等	全国的に起こっている通学途上の痛ましい事故の報道に接して、市民の通学路安全に対する意識が高まっている。そのため、信号機の設置、道路の拡幅、ガードレール設置といった目に見えるハード対策が求められる。		
内部評価の理由	PDCAサイクルを回し課題の解決や状況の改善を図る必要があるため、継続して実施する。		
令和4年度事業 委員会評価	<p>点検箇所の問題のある地点は今後も増えていくと思われるが歩道の拡張などハード面の取組を充実させてほしい。</p> <p>関係者による合同点検を継続的に実施するとともに、交通安全対策実施後の効果の把握や検証等を行い、プログラムの更なる改善や充実を行うことで効果的に推進されている。</p>		
	令和4年度	進捗度	方向性
		4: 予定通り進行中	4: 現行どおり継続すべき

⑩令和4年度実施事業 野洲市教育委員会事務事業点検・評価シート

総合計画	学校教育の充実	
教育振興基本計画	目標3 特色ある学校経営	学校教育課
施策	施策12: 創意と工夫を生かした特色ある教育活動の推進	
事業名	総合学習等の充実	
令和4年度計画 事業概要	令和4年度予算額	令和4年度決算額
	5,414千円	4,814千円
	①元気な学校づくり事業の市内全小中学校が参加する体制を継続させる。 ②学校運営協議会(コミュニティスクール)設置努力義務化に伴い、学校応援団を地域学校協働活動に移行させていく。 ③「芸術鑑賞事業」として、毎年鑑賞内容を変えて継続的に開催できる体制をつくる。 ④外国語活動の本格実施にともない、英語教育支援員を活用した授業の充実を図り、子どものコミュニケーション能力や意欲のさらなる向上を図る。	
令和4年度実績 内部評価 事業実績の具体的 内容・目標の達成 状況など	①元気な学校づくり事業については、市内小、中学校、こども園、幼稚園が各校園とも独自の取組や、自校園を元気にする実践を行った。 ②学校運営協議会規則を制定し、例規整備を進めた。 ③小学校英語、外国語活動については、英語専科教員(県費)と英語支援員(市費)の任用によって、充実させることができた。	
	令和4年度	進捗度
		4: 予定通り進行中
課題改善点等	コミュニティスクールの準備会が発足し、関係規則が制定できた。今後は地域学校協働活動事業と元気な学校づくり事業をコミュニティスクール事業に統合させていく。今後、学校を核とした地域との繋がりが重要となるため、地域ボランティア人員を発掘していく必要がある。	
内部評価の理由	関係機関が連携し、継続して取り組む必要がある。	
令和4年度事業 委員会評価	児童、生徒が生きる力を身につけられるよう内容を工夫しながら取り組んでほしい。 保護者や地域とも連携し、「地域学校協働活動事業」や「元気な学校づくり事業」をコミュニティスクール事業に統合し、豊かな学びができる機会の充実を図ることが必要である。	
	令和4年度	進捗度
		4: 予定通り進行中
		方向性
		4: 現行どおり継続すべき

関係例規

◆野洲市附属機関設置条例（抜粋） 平成30年3月28日・条例第1号

（趣旨）

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第138条の4第3項の規定に基づき設置する附属機関に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第2条 市は、法令若しくはこれに基づく政令又は他の条例（以下「法令等」という。）に定めがあるもののほか、市の執行機関（以下「執行機関」という。）に別表第1に掲げる附属機関を置く。

（所掌事務）

第3条 前条の附属機関が所掌する事務は、それぞれ別表第1の所掌事務の欄に掲げるとおりとする。

（委員）

第4条 第2条の附属機関は、それぞれ別表第1の委員の定数の欄に掲げる人数の委員をもって組織する。

2 前項の委員は、それぞれ別表第1の委員の構成の欄に掲げる者のうちから同表の附属機関の属する執行機関の欄に掲げる執行機関が委嘱し、又は任命する。

3 前項の規定により、委嘱され、又は任命された委員の任期は、それぞれ別表第1の委員の任期の欄に掲げる期間とし、再任されることを妨げない。

4 第2項の規定により、委嘱され、又は任命された委員が欠けた場合における当該附属機関の補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（専門委員等）

第5条 執行機関は、第2条の附属機関に専門委員その他の臨時の委員を置くことができる。

（部会等）

第6条 執行機関は、第2条の附属機関に部会その他の合議制の組織を置くことができる。

（法令等の定めによる附属機関）

第7条 市が執行機関に置く附属機関のうち法令等の定めにより置くものは、別表第2のとおりとする。

（委任）

第8条 この条例に定めるもののほか、第2条の規定により市が執行機関に置く附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、当該附属機関の属する執行機関が別に定める。

付 則

（施行期日）

1 この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表第1

附属機関の属する執行機関	執行機関に置く附属機関の名称	所掌事務	委員の定数	委員の構成	委員の任期
教育委員会	野洲市教育委員会事務評価委員会	教育委員会の事務の管理及び執行の状況の点検並びに評価を行うために必要な事項等の調査審議等に関する事務	3人以内	(1) 市内の小学校又は中学校において校長の職を経験した者 (2) 学識経験を有する者 (3) 前2号に掲げる者のほか、教育委員会が特に必要と認める者	2年

◆野洲市教育委員会事務評価委員会規則

平成30年3月30日・教育委員会規則第12号

(趣旨)

第1条 この規則は、野洲市附属機関設置条例(平成30年野洲市条例第1号)第8条の規定に基づき、野洲市教育委員会事務評価委員会(以下「委員会」という。)の組織、運営その他必要な事項に関し必要な事項を定めるものとする。

(委員長及び副委員長)

第2条 委員会に委員長及び副委員長1人を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会の会議(以下「会議」という。)は、委員長が招集する。

2 委員長は、会議の議長となる。

(関係者の出席等)

第4条 委員長は、会議の議事に関し必要があると認めるときは、関係者の出席を求め、その意見を聴き、又は関係資料等の提出を求めることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において処理する。

(その他)

第6条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が会議に諮って定める。

付 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。